



せんしょう苑 望洋荘 便り

第142号
平成27年
9月発行

大きな古時計

社会福祉法人りんさく福祉会

理事長 須田 滉

理事長の方針にて、せんしょう苑の各ユニット全個室の壁に、掛時計を設置しました。

人は生まれた時から、時間と共に生き、時間に追いかけて生きているといっても、言い過ぎではないでしょう。小生の古びた生家の、以前は雑貨屋を営んでいたであろうと思える土間に隣接した広間には囲炉裏があり、その部屋には「ボンボン」と時を告げる柱時計がありました。六角形あるいは八角形だったか忘れましたが、時刻表示版には秒針はなく、時間と分を示す長短針があり、その下には振り子がついて「チクタク」と音が出ていたものです。

昔ならこの家庭にもあった柱時計。その情景を感じさせるような以前から唄われていた歌詞があります。それは、アメリカ歌曲「大きな古時計」です。作詞・作曲は一八七六年ヘンリー・ワークの作で、保富康午訳詩の歌です。

1. 大きなのつぼの古時計 おじいさんの時計

百年 いつも動いていた ご自慢の時計さ

おじいさんの 生まれた朝に 買ってきた時計さ

2. 何でも知っている古時計 おじいさんの時計

きれいな花嫁やってきた その日も動いていた

うれしいことも 悲しいことも みな知ってる時計さ

望洋荘にも、5ユニット・80の個室があります。徐々に時計を増やしていますが現在半分ほどまで充足されていると思います。また、本人やご家族に持つてきていただいた時計もあります。日常生活で、生きていくにも、時間との因果関係を絶つことはできません。記憶と忘却は時の経過によって変化していくのでしょうか。最後に、この「大きな古時計」の歌詞は、

3. 真夜中にベルが鳴った おじいさんの時計

お別れのときがきたのを みなにおしえたのさ

天国へのぼる おじいさん 時計ともお別れ

いまは もう動かない その時計

百年休まずに チクタク チクタク

おじいさんと いっしょに チクタク チクタク

いまは もう動かない その時計

と、続きますが、望洋荘やせんしょう苑の個室に備えた時計には、入居者と共に長く長く人生の時を刻み続けて貰い、一人でも多くの方々に百寿を迎える喜びを味わって欲しいと思っています。



望洋荘 祭り

望洋荘



9月20日に望洋荘祭が催されました。
 今年は「チアガール」や「じやんがら」のボランティアの方々に加えて、「和太鼓」のグループも参加して下さいました。
 晴天に恵まれ、皆さん屋台のかき氷や綿あめを楽しんでいました。





せんしょう苑

じゃんがらボランティア



先月の8月13日にじゃんがらのボランティアが来て下さいました。皆さん、真剣な表情でご覧になっていました。



十月お誕生日の皆さん

【せんしょう苑】

永山 しげ 様

十月二七日

九一歳

みまや東ユニット

鈴木

章子 様

十月二六日

九〇歳

みまや西ユニット

【望洋荘】

坂本

ミイ子 様

九八歳

吉岡

ツル 様

四倉ユニット

矢内

光子 様

薄磯ユニット

鈴木

スィ子 様

豊間ユニット

渡邊

千代子 様

永崎ユニット

高橋

ツネ 様

豊間ユニット

山廻邊

利勝 様

永崎ユニット

佐藤

キクエ 様

八三歳

十月二日

四倉ユニット

十月十日

勿来ユニット

十月十七日

八五歳

十月二十日

八七歳

十月二十七日

八五歳

十月三十一日

八七歳

十月三十一日

八七歳

十月三十一日

八七歳

十月三十一日

八七歳

十月三十一日

八七歳

十月三十一日

八七歳

十月三十一日

八七歳

十月三十一日

八七歳

十月三十一日

八七歳

十月三十一日

八七歳

十月三十一日

八七歳

十月三十一日

八七歳

十月三十一日

八七歳

編集後記

『せんしょう苑・望洋荘』便り

平成二十七年九月三十日発行

発行所 いわき市平豊間字合磯三十九番地

社会福祉法人 りんさく福祉会

介護老人福祉施設

望洋荘

電話 (0246) 55-7373

地域密着型介護老人福祉施設 せんしょう苑

電話 (0246) 38-6331